

	航海日数	船数	総屯数
日高命令船 甲	一	一	二六九
日高命令船 乙	一	一	二〇〇

ど函館に限られていた取引先は札幌、小樽、室蘭と範囲が拡大され、海上の交通は活発度を失い衰頹の一路をたどっていった。そして昭和十二年日高線の全通を見てからも、依然として利用度を買われ二、三年の命脈を保ったとはいうものの、昔日の面影はなくなり戦後は停止されてその復活も見られないが、汽船にかわり僅かに発動機船がその仕事を存続することになった。

昭和三十五年三月、浦河―函館―東京間の定期海上輸送航路は中村汽船東京支店（本社名古屋市）の手によって七百トン級の貨物船を建造、就航の準備が進められたが、浦河港の現状ではこの級の船の入港ができないので、とり敢えず四百トン級の船で定期航路をもつことになり、その第一段階として同社所有の晴海丸（三九〇トン）が目下のところ不定期ではあるが航行をつけ、第一船が八日マンガン鉱、その他の貨物を積んで浦河港に入港、浦河からカンラン岩、木材を積出す輸送をはじめたが、今後月六回往復の定期航路が決定し、浦河町に対しこの輸送実施に伴う港使用について協力を求め、そして同社ではさらに福神丸（二七五トン）を配船することになった。

かくて前記二船は交互に就航したが、その後神裕丸も就船に加わった。しかも豊富な資源・開発に期待のもてることに着眼した中村汽船は、海上輸送力の強化を図り新たに貨物船を建造して現在の配置船と交代させる方針をきめ、既にその第一船として浦河港向きの日高丸（八一五重量トン）が新造され入港を見せている。

さらに東北パルプは木材輸送に第一宝生丸（二二九トン）を就航させており、浦河港貨物移出高は飛躍的な伸びを見せているため、これに対応して昭和三十六年から五カ年を実施年度とする「浦河港整備計画」を樹て、総事業費三億四千万円を以て、一千トン級貨物船の接岸を容易にするための第一埠頭と中央埠頭を新設して、商港としての新生面をひらくべくその施設整備を重点的に行なっている。

日高管内入港船舶数（昭和四四年）

種別	総数		商船		漁船		その他	
	隻数	屯数	汽船隻数	帆船隻数	汽船隻数	帆船隻数	汽船隻数	帆船隻数
町別								
日高支庁	六、五〇	二、〇五、九〇	三、三三	三、〇〇	三、〇〇	一、五七、六三	六、三六	一、六〇、五三
三石町	三、三六	一、四七、九				一、四七、九		六、〇七
浦河町	三、四四	一、四九、三二	三、三二		三、三二	一、四七、九	六、三六	三、五五
様似町	六、三六	二、四一、六〇	八、七二			四、三三		二、七五
えりも町	二、三〇	一、四七、三〇		三、三三		二、三〇、九五		三、三〇、七

右欄は隻数 左欄は屯数

一〇 地域の健康

1 保健衛生

すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は、すべての生活部門について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない、と憲法第二十五条に定められている。

保健衛生に関する立案は衆・参議院において組織しているそれぞれの厚生委員会においてなされるが、保健衛生のすべては厚生省が担当している。本道各地にある保健所は、道の衛生部に所屬し、道内の衛生・保健行政の末端をなしている。そしてその地域の保

保健衛生を担当し、公衆衛生の向上及び増進を図ることをその使命とする。保健衛生の行制制度としては国民健康保険制度と保健所があるがその事業は要するに衛生行政の現場の仕事でありそれ故、衛生行政の縮図としてその仕事は各方面にわたるけれども、その基本的な仕事として先ず衛生思想の普及及び向上に関することが第一である。

歴史を辿ると日高の衛生思想の涵養普及に努めるため、明治三十五年に浦河に衛生会が誕生している。こうして見ると当時としては衛生文化もかなり高い水準にあったものと想像される。浦河保健所の設置は昭和十九年九月二十一日で、同二十四年四月一日に浦河保健所支所が静内町に設置された。

しかし昭和三十年四月一日に静内保健所が設置されるに及んで、静内町、新冠町、平取町、門別町、日高町の五町をその所管区域とし、それに伴い浦河保健所の区域は三石町、浦河町、様似町、えりも町の四町となった。かくて日高管内の保健行政がこの両保健所によって行われている。

また、日高支庁管内全町村の家畜衛生行政は昭和二十五年四月一日設置の日高家畜保健衛生所が担当したが、昭和二十七年門別、二十九年静内と家畜衛生所が設置されそれぞれの管轄区域を定め畜産の振興に寄与した。

その後、昭和四十一年に交通網の整備などにより合併し、再び日高家畜保健衛生所となる。

2 医療

医療従事者は、医師数、薬剤師数、看護婦数、準看護婦数において特に充足率が低い。医師については内科が圧倒的に多く、次いで外科でそれ以外の産婦人科、整形外科、耳鼻咽喉科、小児科、精神科などの専門医は極めて少く、眼科医のいないことは管内の悩である。次に昭和四十二年三月における日高の保健所管内医療従事者の表を掲げるが、これを見ても如何に日高が医療面において後進地域であるかがわかる。

日高の保健所管内医療従事者数 (S四二・三)

区分	医師	歯科医師	薬剤師	保健婦	助産婦	看護婦	準看護婦	診療X線技師	歯科技工士	歯科衛生士	栄養士	衛生検査技師	あんまはりマッサージ
保健所 町村名													
静内保健所	四	一	二	一	一	四			一		一	一	一
日高町													
平取町	六	一	一	二	六	五	四	一			一	一	一
門別町	一一	四	五	一	五	七	四	一	二		一	一	四
新冠町	四		二	三	二	二	五				一	一	一
静内町	(一) 五	五	六	(四) 九	五	二	(一) 四	(一) 三	一		(一) 六	(一) 六	八
小計	(一) 三〇	一一	一六	(四) 一六	一九	三三	二七	(一) 五	四		(一) 一〇	(一) 一〇	一五
浦河保健所 三石町	四	二	一	一	二	三	七	一			一	一	二
浦河町	(一) 五	三	八	七	八	二八	四四	六	二	一	三	四	九
様似町	五	三	一	一	五	九	四				二		四
えりも町	三	一	一		四		一		一				一
小計	(一) 二七	九	一一	九	一九	四〇	五六	七	三	一	六	五	一六
合計	(一) 五七	二〇	二七	(四) 二五	三八	七二	八三	(一) 一二	七	一	(一) 一六	(一) 一五	三一

医療従事者 (日高の保健所調べ) 昭和四二年版

人口十萬対	医師数	歯科医	薬剤師	看護婦	准看護婦	助産婦	保健婦
全道	八六・四	二七・〇	四八・三	一一九	一一二	二〇	一六
管内	五二・五	二〇・〇	二二・六	六三	七九	二五	二一

(日高の公衆衛生)

日高管内医療施設・従事者数 S 四四・二・三一

	病院			診療所		ベット数	医師	歯科医師	薬剤師	看護婦	助産婦	保健婦
	総数	公立	その他	一般	歯科							
日高支庁	一一	六	六	四一	一八	四一八	六四	二〇	二九	一七三	二五	二七
日高町	一	一	一	一	一	四七	三	一	二	七	二	二
平取町	一	一	一	四	二	一一五	五	二	一	五	五	二
門別町	三	一	二	五	四	二三八	一一	三	四	一七	三三	二
新冠町	一	一	一	四	一	七九	三	一	二	九	二	三
静内町	三	一	二	一〇	四	三〇一	一四	五	六	三五	四	八
三石町	一	一	一	三	二	八〇	四	二	二	一一	二	一
浦河町	一	一	一	七	三	四一〇	一七	三	八	七五	三	七
様似町	一	一	一	三	一	二二六	四	三	二	九	二	二
えりも町	一	一	一	四	一	三二	三	二	二	五	二	二

北海道市町村勢要覧による

浦河町においては日赤総合病院が中心病院としての役割を果たしているが、静内以西には中心病院が欠如している現状である。

一一 通信網

1 郵便

大正時代以降管内において開設された郵便局は、先ず大正三年九月、幌泉町字えりも郵便局である。昭和に入ると、通信事務が次第に輻湊して管内各町村に次々と郵便局が設立されていった。

昭和二年荷負、春立に郵便取扱所が設立されたが、前者は昭和七年、後者は昭和八年に三等郵便局に昇格した。昭和十年三石・浦河間に鉄道が開通すると、郵便物は鉄道便により運送した。昭和十一年幌満郵便局と野深郵便取扱所が開設された。十二年浦河・様似間の鉄道が開通し、日高線は全通を見たので、苫小牧・様似間の各郵便局は鉄道受渡局に指定された。この年荷負局は電信電話の取扱を開始し貫気別郵便局が開設され、高江郵便局取扱所が村の請願で開設した。(十三年郵便局に昇格、二十六年新冠郵便局と改称)

十三年前記の幌満局は電信電話を併設してその事務を開始、野深は郵便局と改称した。

同年振内郵便局、豊畑郵便取扱所がともに開設された。十四年には門別町庫富、十六年三石町富沢、様似町鶴苫、十七年浦河町堺町十八年東様似、二十年無集配局日東(仁世宇)二十一年豊郷、二十三年清島、新冠町新和と次々に郵便局が開設された。

なお二十年一月に浦河局は普通郵便局に昇格し、その後四十一年静内郵便局が普通郵便局に昇格管内に二局となった。

昭和二十四年六月、電気通信省設置に伴い、従来の逓信省は郵政、電通の二省に分割され、これに関連して浦河郵便局は郵便のみの取扱をすることとなった。この分離は明治十八年以来、五十有余年にわたる逓信省が解体された画期的なものである。

昭和二十五年十月指定局制度が実施されたため、浦河郵便局は三石以東十五指定郵便局の会計給与及び統計事務を取扱うこととなった。

同年十一月、平取町字シウラ簡易郵便局が設立された。

また、新冠御料牧場の開放に伴い、戦後僻地に入植した開拓移民のために郵便事務を行うことを目的として、次の簡易郵便局が、何れも新冠町の各部落に設立された。昭和二十四年日高泉、二十五年万世、二十六年太陽、三十三年日高朝日の各局がそれである。

2 電信電話